

西暦 2023 年 4 月 4 日

医薬品等適応外使用検討会議で承認された治療法

当院の医薬品等適応外使用検討会議にて、下記の治療法が承認されました。対象者となられる方から同意をいただくことに代えて、病院のホームページにて情報公開をすることにより投薬を実施しております。なお、本件について同意できない場合、診療において不利益を被ることはありません。この内容に関して拒否される場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

記

実施内容	膿胸に対するウロキナーゼ胸腔内注入線維素溶解療法
実施責任者	鈴鹿回生病院 病院長 岡宏次
対象者	多房性膿胸
承認日	2023 年 4 月 4 日
対象期間	承認後より永続的に使用
概要	<p>【目的・意義】</p> <p>膿胸に対する治療は胸腔ドレナージ術による排膿と抗生剤治療が一般的ですが、胸腔内膿瘍が多房性に分かれている場合、十分なドレナージを得ることが出来ず、全身麻酔下に胸腔鏡下隔壁搔爬術が行われます。高齢や肺気腫、担癌状態など全身麻酔が困難な症例に対して、ウロキナーゼによる隔壁融解術を使用することがあります。ガイドライン上は死亡率や手術の必要性、在院日数などにおいて薬剤を使用しなかった場合と大差がないとされていますが、多数の治療効果を認める症例報告があることから、治療の有効性が期待できると考えます。</p> <p>【想定される不利益と対策】</p> <p>想定される合併症は出血、薬剤アレルギー、肺癰などが考えられます。出血は胸膜癒着部の剥離が原因の可能性があり、止血剤投与などの対応が考えられます。肺癰は胸腔ドレナージ中であることから追加の対応の必要性はありません。薬剤性アレルギーではステロイド投与や昇圧剤投与の対応が必要と考えられます。</p>
お問い合わせ先	鈴鹿回生病院 薬剤管理課 代表 059-375-1212 (内線 2500)

以上